



2023年3月期

# 決算説明会資料

2023年5月16日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

会社名  
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス  
(IPS, Inc.)

設立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容・  
主な連結  
子会社

国際通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

ISMO Pte. Ltd.  
Carrier Domain, Inc.

フィリピン通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供、フィリピン国内通信回線敷設

InfiniVAN, Inc.

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

株式会社アイ・ピー・エス・プロ

メディカル&ヘルスケア事業：フィリピンでのレーシック・美容サービス・予防医療の提供

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC)  
Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC)

その他

KEYSQUARE INC.

## 企業理念

# OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、日本およびフィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



**1 | Executive Summary**

**2 | 2023年3月期 決算概況**

**3 | 2024年3月期 業績予想**

**4 | 今後の事業戦略**

## 2023年3月期 連結決算概要

売上高：12,346百万円      営業利益：3,311百万円      売上高営業利益率：26.8%  
(前年同期比15.1%増)      (前年同期比34.8%増)      (前年同期は22.9%)

## 2023年3月期の事業推移

1. 国際通信事業は、国際通信回線C2Cの提供が進み、入金により収益計上するIRU契約案件の収益が増加。通信機器の販売による収益計上があり、大幅に増収増益となった。
2. フィリピン通信事業は、営業員の増強により法人向けインターネット接続サービス（Enterprise）の売上が増加したものの、前期には大口の通信機器販売があり、減収となった。当期は成長に向けた設備投資や営業力強化のための営業員の増強などの先行投資の増加を吸収し、増益となった。
3. 国内通信事業は、会社分割により株式会社アイ・ピー・エス・プロに分社化。コールセンター向けサービスが順調に推移し、増収増益となった。
4. メディカル&ヘルスケア事業は、レーシック件数が増加し、増収増益となった。

## ビジネス

1. フィリピン国内海底ケーブルの建設が進捗する。（2023年4月に海底ケーブルの工事が完了。）
2. 国内通信事業を会社分割により分社化し、株式会社アイ・ピー・エス・プロを設立。
3. メディカル&ヘルスケア事業では、予防医療分野に新規に進出するため、人間ドック/健診センターを運営する会社を設立。（人間ドック/健診センターは、2023年4月に開業。）

## 2 | 2023年3月期 連結決算概要

# (1) 決算ハイライト



## 【2023年3月期 連結実績】

(単位：百万円)

	第4四半期				通期累計			
	2022年3月期	2023年3月期	前期比	%	2022年3月期	2023年3月期	前期比	%
売上高	4,302	3,549	▲ 753	▲ 17.5%	10,728	12,346	1,617	15.1%
営業利益	1,032	983	▲ 48	▲ 4.7%	2,456	3,311	855	34.8%
経常利益	1,417	1,157	▲ 259	▲ 18.3%	2,897	3,464	567	19.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	933	735	▲ 197	▲ 21.2%	1,888	2,292	404	21.4%

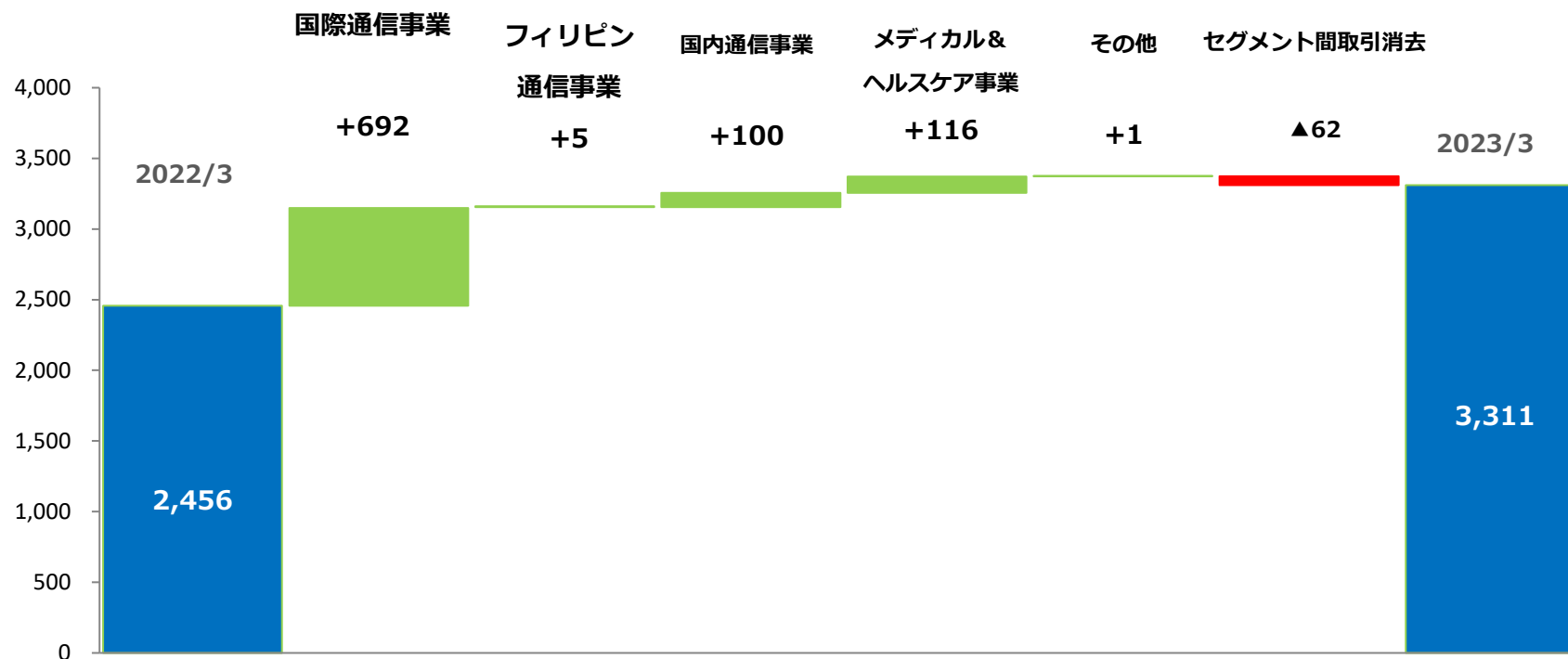
### 2023年3月期 実績分析

- **売上高**：国際通信事業においてC2C回線のIRU契約案件の収益計上などに加え、通信機器販売の計上により売上高が大きく増加。メディカル&ヘルスケア事業においてもレーシック件数増加による大幅増収も寄与し、前期比15.1%の増加。
- **営業利益**：国際通信事業、国内通信事業およびメディカル&ヘルスケア事業が増益になったことにより、前期比34.8%の増加。
- **経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益**：  
営業利益の増加に加え、円安による為替差益210百万円（前期の為替差益は431百万円）の計上により、それぞれ前期比19.6%、21.4%の増加。

## (2) 営業利益増減（前年同期比）



国際通信事業、国内通信事業およびメディカル&ヘルスケア事業が好調に推移し、増益となる。



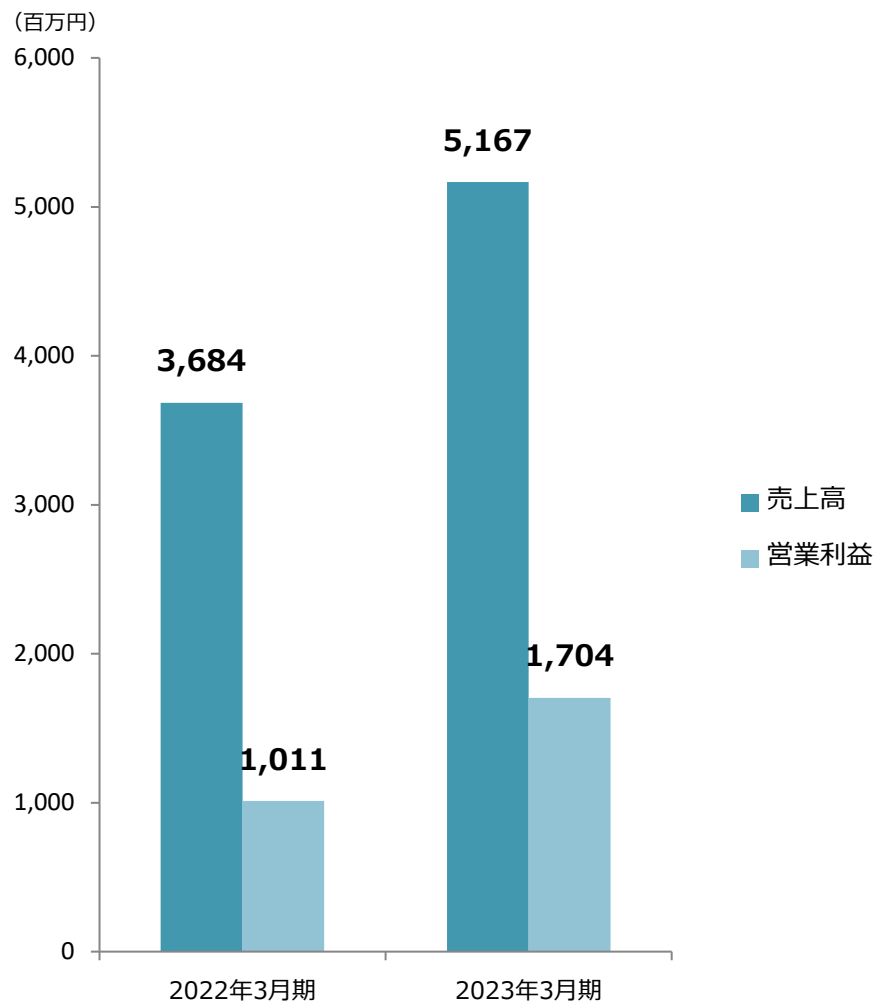


### (3) 事業セグメント別経営成績



(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	増減率
国際通信事業	売上高	3,684	5,167	1,483	40.3%
	営業利益	1,011	1,704	692	68.5%
フィリピン通信事業	売上高	1,784	1,181	▲ 603	▲33.8%
	営業利益	224	229	5	2.5%
国内通信事業	売上高	3,988	4,275	286	7.2%
	営業利益	819	919	100	12.3%
メディカル & ヘルスケア事業	売上高	1,244	1,690	446	35.9%
	営業利益	419	536	116	27.8%
その他	売上高	26	31	4	16.2%
	営業利益	▲ 19	▲ 17	1	-
セグメント間取引消去	営業利益	-	▲ 62	▲ 62	-
合計	売上高	10,728	12,346	1,617	15.1%
	営業利益	2,456	3,311	855	34.8%

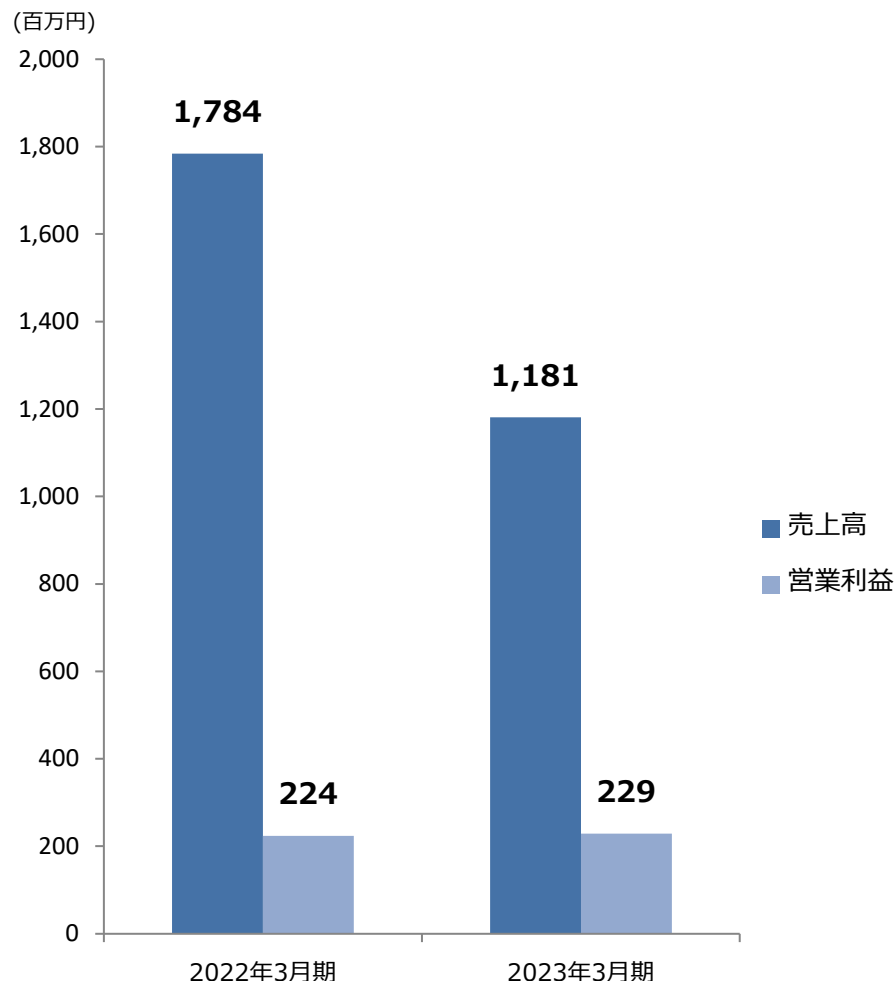


## 国際通信回線C2Cなどの提供による事業拡大

フィリピンのCATV事業者／通信事業者に国際通信回線を積極的に拡販し、ストック型ビジネスの拡大を図る。

今期は、C2C回線の提供拡大のほか、フィリピンのCATV事業者向けの通信機器の販売の収益計上があり、大きく増収増益。

引き続き、C2C回線を中心に国際通信回線の拡販を図り、事業の拡大に努める。



## 成長に向けた先行投資の実施

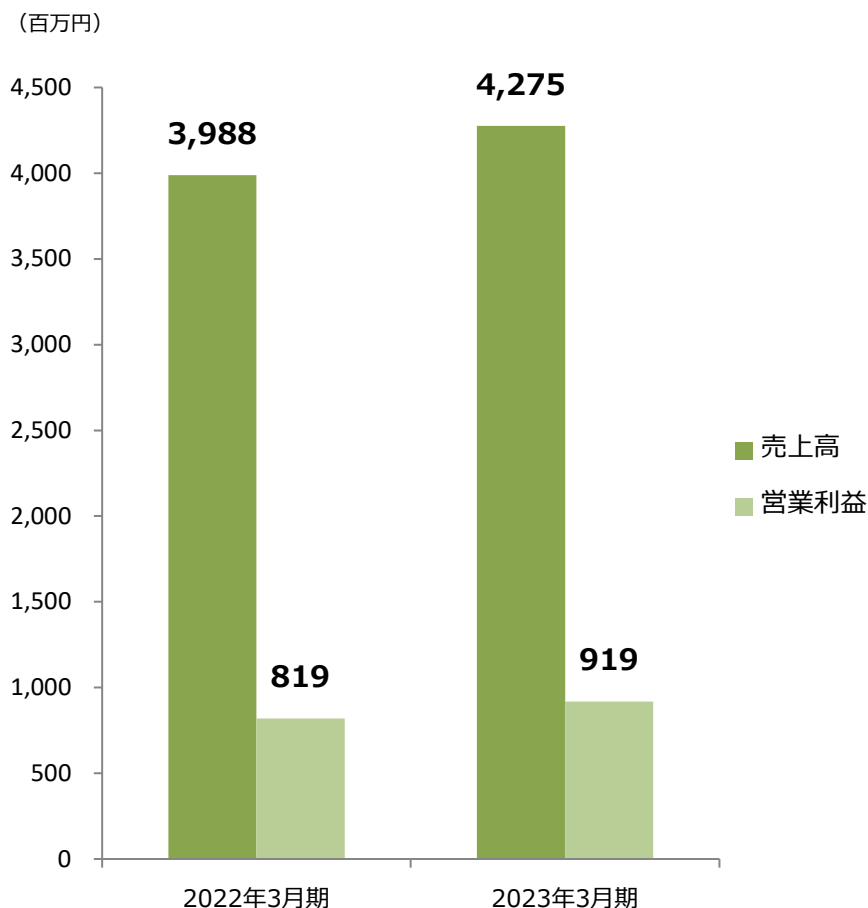
### ◆ フィリピン国内の基幹回線網の整備

昨年7月よりフィリピン国内海底ケーブルの共同建設を開始。本年4月に建設完了。フィリピン陸上の回線建設を進め、フィリピン国内基幹回線網の整備を実施。

### ◆ 営業力の強化

マニラ首都圏法人向けインターネット接続サービス顧客獲得に向けた営業力強化のために営業員を増強中。

**2023年3月期は、法人向けインターネット接続サービスが営業員の増強により売上が増加したものの、前期に大口の機器販売を計上したことから、減収。**

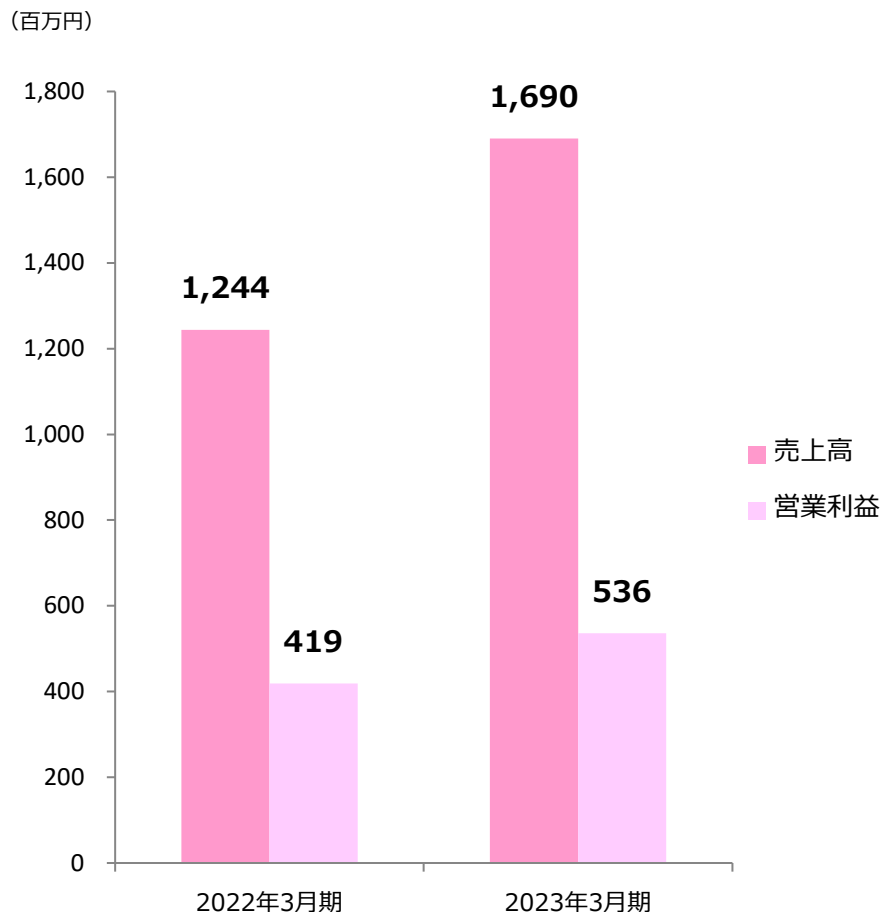


## 株式会社アイ・ピー・エス・プロの設立

意思決定の迅速化及び機動的な企業運営を強化し、事業執行の確実性とスピード化を図るため、昨年7月1日付けで、国内通信事業を会社分割により分社化し、株式会社アイ・ピー・エス・プロ（IPSP）を設立。新たな通信事業分野への進出などを進め、事業拡大を図る。

## コールセンターソリューション等が好調

コールセンターシステムAmeyoJと秒課金サービスを合わせたコールセンター事業者向けサービスが好調に推移し、増収増益。



## レーシック手術件数が増加し、増収増益

Shinagawa Lasik & Aesthetic Center Corporation (SLACC) が提供しているレーシックは、新型コロナウイルス感染症に関する社会の正常化が進み、ボニファシオグローバルシティの第3院を中心に手術件数が増加し、増収増益。

## 予防医療分野への進出

日本の高品質な技術を導入した人間ドック／健診センターの開設に向け、運営会社として Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC) をSLACCの子会社として設立。2023年4月に人間ドック／健診センターを開院。



送金斡旋などのサービスを在留  
フィリピン人の方に提供。

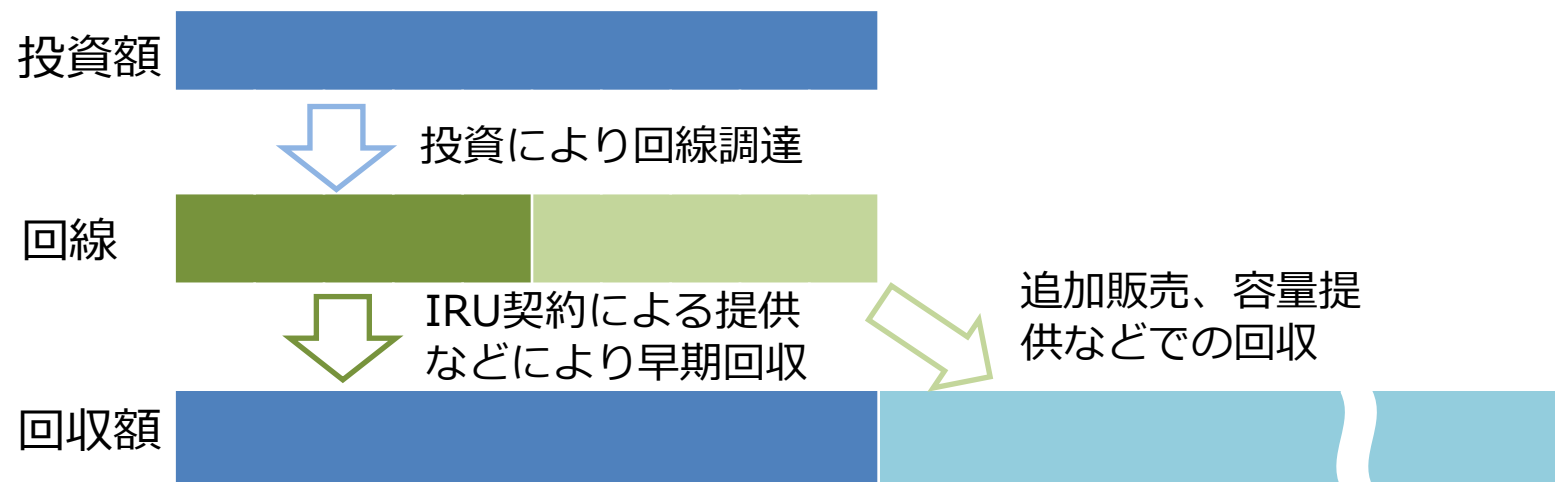
## 連結貸借対照表 (サマリー)

(単位：百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
	2022年3月期末	2023年3月期末	増減		2022年3月期末	2023年3月期末	増減
流動資産	12,023	14,270	2,246	流動負債	7,865	12,250	4,385
現金及び預金	5,778	6,881	1,102	買掛金	1,032	1,781	748
売掛金	2,069	2,631	562	借入金	1,845	6,170	4,324
リース投資資産	3,340	3,203	▲ 137	その他	4,986	4,299	▲ 687
その他	834	1,553	719	固定負債	1,418	1,014	▲ 404
				長期借入金	1,203	760	▲ 443
				その他	214	253	38
固定資産	6,397	10,839	4,442	負債合計	9,283	13,265	3,981
有形固定資産	3,776	8,171	4,395	純資産	9,136	11,864	2,727
無形固定資産	1,721	1,760	39	株主資本	7,131	8,905	1,773
投資その他資産	899	907	7	累積包括利益	178	449	270
繰延資産	-	19	19	新株予約権	191	263	72
				非支配株主持分	1,635	2,245	610
資産合計	18,420	25,129	6,708	負債・純資産合計	18,420	25,129	6,708

2020年のC2C回線使用权の取得や今回のPDSCN共同建設など大型の投資案件についての回収方針についてご説明いたします。

## 投資と回収のイメージ

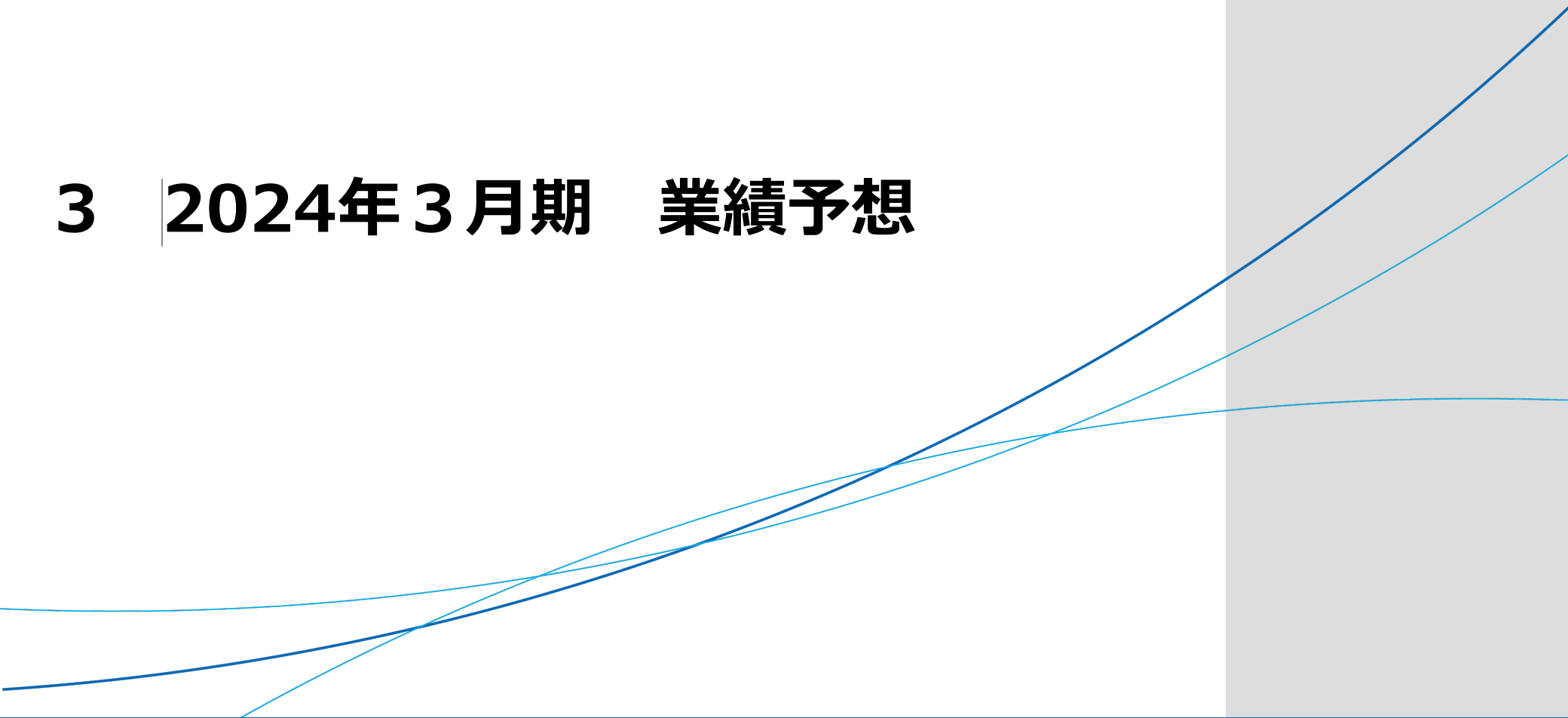


※イラスト上の比率は参考のもので、実際のものとは異なります。

当社グループの投資方針については、可能な限り、上記図のように投資額をあらかじめ早期回収できるように提供先を準備し、投資を実行するようにしております。



### 3 | 2024年3月期 業績予想



# 報告セグメントの変更



報告セグメントについては、現在、主に「国際通信事業」、「フィリピン通信事業」、「国内通信事業」、「メディカル&ヘルスケア事業」の4セグメントとしております。

2024年3月期より、今後のフィリピン国内海底ケーブル建設によるフィリピンにおける通信事業の業容の拡大を踏まえ、国際通信事業とフィリピン通信事業との連携がこれまで以上に高まることが見込まれることから、国際通信事業に統合するものです。併せて、「その他」としている事業の進捗管理も国際通信事業およびフィリピン通信事業を統括している通信事業本部にて実施していることから、国際通信事業に統合いたします。

(旧セグメント)	(新セグメント)	連結子会社
国際通信事業	国際通信事業	・ InfiniVAN, Inc. ・ ISMO Pte. Ltd. ・ KEYSQUARE INC. ・ CarrierDomain Inc.
フィリピン通信事業		
その他		
国内通信事業	国内通信事業	・ 株式会社アイ・ピー・エス・プロ
メディカル&ヘルスケア事業	メディカル&ヘルスケア事業	・ Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC) ・ Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC)

（単位：百万円）

	2023年3月期 通期実績	2024年3月期			
		上期	下期	通期	前年実績比
売上高	12,346	5,000	9,000	14,000	13.4%
営業利益	3,311	1,000	2,800	3,800	14.8%
経常利益	3,464	950	2,600	3,550	2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,292	600	1,600	2,200	▲4.1%

## 通期予想の概要

- 売上高および営業利益は、140億円、38億円を見込む。経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、35.5億円、22億円を見込む。今期の想定為替レートは、1ドル=130円、1ペソ=2.4円。
- 国際通信事業においては、InfiniVANにおいて法人向けインターネット接続サービス獲得のための営業員の増員などの先行投資を積極的に行うものの、InfiniVANが建設したフィリピン国内海底ケーブルの提供が開始されることから、増収増益を見込む。
- 国内通信事業においては、引き続きコールセンター向けサービスの拡大を見込む。
- メディカル&ヘルスケア事業においては、SLACCはレーシックの件数の増加を見込み、増収増益となるものの、人間ドック/健診センターの運営が開始となるSHSCにおいては、多額の初期投資の減価償却費などのため、初年度は赤字を見込む。

# 2024年3月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)

セグメント	2023年3月期	2024年3月期予想	前年比	
			前年比	増減率
<b>売上高</b>	<b>12,346</b>	<b>14,000</b>	<b>1,653</b>	<b>13.4%</b>
国際通信事業	6,380	6,800	419	6.6%
国内通信事業	4,275	4,700	424	9.9%
メディカル&ヘルスケア事業	1,690	2,500	809	47.9%
<b>営業利益</b>	<b>3,311</b>	<b>3,800</b>	<b>488</b>	<b>14.8%</b>
国際通信事業	1,865	2,200	334	17.9%
国内通信事業	919	1,050	130	14.2%
メディカル&ヘルスケア事業	536	550	13	2.4%
セグメント間取引消去	▲ 11	—	—	—
<b>営業利益率</b>	<b>26.8%</b>	<b>27.1%</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
国際通信事業	29.2%	32.4%	—	—
国内通信事業	21.5%	22.3%	—	—
メディカル&ヘルスケア事業	31.8%	22.0%	—	—

(注) 2023年3月期のセグメントの売上高・営業利益はセグメント変更に合わせ、組み替えております。

## ■ 国際通信事業

C2C回線を中心とした国際通信回線をフィリピンなどの通信事業者・CATV事業者への提供を拡大する。

InfiniVANが共同建設したPDSCNを陸上部分の通信回線と接続させ、フィリピン国内基幹回線を構築し、その回線提供を開始する。また、これまで提供できなかった地方の通信事業者・CATV事業者との取引の拡大を図る。

法人向けやレジデンス向けのインターネット接続サービスにおいては、営業員の増強などの先行投資を増加させ、顧客獲得強化を一層進める。

## ■ 国内通信事業

コールセンター事業者など向けの自動架電や顧客管理を統合するシステム（AmeyoJ）と、格安通話料金サービス（秒課金フリーダイヤルサービス）をパッケージにしたトータルソリューションが引き続き堅調に推移する計画。

固定通信のIP化への対応や日本国内の通信環境の改善などに向けた事業活動を検討する。

## ■ メディカル&ヘルスケア事業

今期も引き続きレーシックの件数の増加を見込む。

4月に開院したShinagawa Diagnostic & Preventive Care Center（人間ドック／健診センター）を運営するSHSCは初年度赤字を見込む。

## 4 | 今後の事業戦略

# 1. フィリピンにおける通信事業の成長のロードマップ



## 次の構想「フィリピン通信の開国」

国際海底ケーブルを建設

⇒OTT※やフィリピン外の大手通信事業者と協業し、国内のコンテンツデリバリネットワーク（CDN※）などを提供



2022年～

2022～2023年フィリピン国内海底ケーブルを建設、9月末までに全国140か所の中継局が完成予定

⇒中堅通信事業者や地域CATV向けに提供



2020年～

国際通信回線（C2C等）のIRU取得

⇒通信事業者向けに提供

（キャリアズキャリア取引）

個人向けインターネット接続

法人向けインターネット接続

CATV向け国際回線

①

### 国際回線増強（キャリアズキャリア取引）

⇒取得済回線の容量拡大、新規回線の取得から受注の継続・拡大へ

⇒通信事業者のパートナーとして実績拡大・信頼向上へ

5G接続サービスが本格稼働すれば更に拡大  
アフターコロナ期の拡大を期す

取引先の拡大 + 容量増大や次世代サービス提供を支えて関係を深化

Y1  
(現在)

※グラフはイメージ図

※将来の記載については、実施を約束するものではありません

③

### 国内基幹回線を最適化

⇒日系企業で、通信自由化の経験則があり、フィリピン国内免許と回線・設備を持つ、当社ならではのサービスを提供

②

### 面の展開（国内縦断の基幹回線を構築）

⇒効率的な自社回線ストックが主要地域を縦貫し、益々増大するトラフィックを広域に運ぶインフラへ

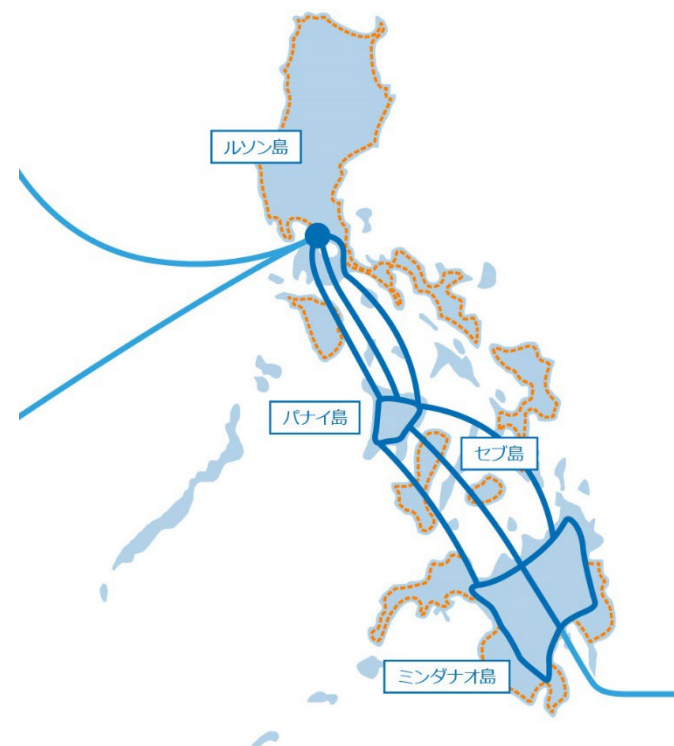
2022年7月より、InfiniVAN, Inc. は、フィリピンの通信事業者Eastern Globe Telecom, Inc. およびTelecommunications Philippines, Inc.と共同で（Philippine Domestic Submarine Cable Network。以下「PDSCN」という。）の建設を開始し、2023年4月海底部分の建設が完了。

この海底ケーブルは、全長2,500Kmのフィリピン最大の国内海底ケーブルネットワークとなる。

日本の敷設事業者での完工。

2023年9月末までに全国140か所の中継局を設置し、ハイパースケール事業者、CATV事業者、地方の通信事業者、地方の法人向けに通信サービスの提供が全国規模で可能になる。

既存大手通信事業者と遜色のないネットワークが完成する。



※イラスト上の回線のルートは、実際のものとは異なります。



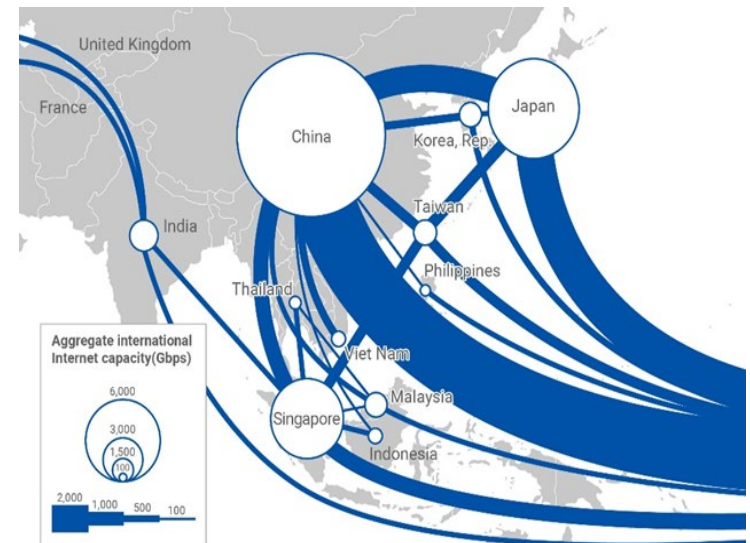
## 2. 日本における新たな事業機会の創出

日本国内においても、新たな陸揚局やバックホール（陸揚局から都市部への中継回線）を提供することに事業機会を見出し、昨年7月に株式会社アイ・ピー・エス・プロを分社化。

東南アジアのインターネットのデータ交換（IX）は、主に香港・シンガポールで行われている。現在は、米中摩擦などにより香港を避ける傾向になっていて、シンガポールへ移行の動きが顕著になっている。

アメリカ向けのケーブルシステムやアジア発のケーブルシステムが日本を起点にしていることの地理的アドバンテージがあるにも関わらず、日本の陸揚局やバックホールの料金が他国に比べ、非常に高く、アジアのインターネットのトラフィックのデータ交換（IX）を日本で行うという事業機会を失っていた。

IPSPは、日本の陸揚局、バックホール（陸揚局から都市部への中継回線）を格安に提供することで、東南アジアのデータ交換を日本に持ってくることに新たな事業機会を創出し、積極的に取り組んでまいります。



### 3. メディカル&ヘルスケア事業（予防医療分野への進出）



メディカル&ヘルスケア事業では、2023年4月、フィリピンでのレーシック提供に続き、日本規格の予防医療の提供をする、人間ドック／健診センター「SHINAGAWA DIAGNOSTIC & PREVENTIVE CARE CENTER (SDPCC)」を開業。

包括的で高品質な日本規格のヘルスケアサービスを提供。

この施設は、フィリピン初の予防医療を主とした医療施設。

院内ラボを備え、早期結果提供。最新の医療機器の導入。

1日あたりの稼働を最大化させ、1人当たりのコストを徹底的に落とす。

日本が得意とする画像診断技術を活用し、検査画像は日本とフィリピンの専門医による二重読影（ダブルリーディング）の実施。



開院式



➤ **C2C**

フィリピンとシンガポール・香港を結ぶ海底ケーブル (City-to-City Cable System)。

➤ **キャリアズキャリア**

通信回線の通信事業者向けの卸売業者。

➤ **IRU**

Indefeasible Right of Use。関係当事者の合意がない限り、破棄したり終了させることができない永続的な回線や設備の使用権。

➤ **AmeyoJ**

当社が日本国内の販売代理権を持つ、インドのDrishti-soft Solutions Pvt. Ltd.が開発したコールセンターシステム。

➤ **秒課金サービス**

大手電気通信事業者が提供している着信課金サービス(フリーダイヤル)を大量に仕入れて、コールセンター事業者向けに秒単位で販売するサービス。

➤ **CDN**

Content Delivery Network。Web サイト上のコンテンツを迅速にエンドユーザーに届けるための仕組み。

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス  
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1  
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331